

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「知徳・仁愛・高志」のもと、生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

阜が丘での学校生活を通じて、生徒が多様な進路を実現できるよう、個別最適化された指導により、以下の力を育みます。

- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得し活用する力、他者を思いやることのできる豊かな人間性と社会性
- ・生活を豊かにすべく習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し解決するための思考力・判断力・表現力
- ・国際化した社会において、地球的視野で考え、地元を支え地域の発展に貢献できるグローバルな力

2 中期的目標

将来への選択肢を広げられる基盤を築くとともに、国際的な視野と地域・社会への貢献力の育成により、充実した未来へ繋げるため、次の 3 項目を中期的目標とする。

1 確かな学力の定着と学びの進化

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

ア 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させるとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育む。

イ 「魅力的な授業・わかる授業」から「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2) 自学自習する力を育む。

ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。

イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。

イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

授業満足度 R8年度には 85%以上を維持 (R3 90.5% R4 91.85% R5 87.57%)

授業以外の学習 1 時間以上 R8年度には 55%以上をめざす (R3 32% R4 29% R5 38%)

進路指導に対する肯定率 R8年度には 85%以上を維持 (R3 90.9% R4 91% R5 90%)

学力診断テストにおける学力評価(2年次の C ゾーン以上の維持 (R3 79% R4 77.4% R5 77.4%)

難関・中堅私立大学への進学者数 20 名以上をめざす (R3 16 名 R4 15 名 R5 19 名) (関関同立・産近甲龍・関外・佛教)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。

イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に取り組み、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

※ 部活動加入率 R8年度には 70 %をめざす (R3 62.8% R4 63.5% R5 56.7%)

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

ア 遅刻指導等の生徒指導を全校体制で行い、時間や規則を守る意識を育む。

イ 登下校時や校内で元気よく挨拶を行い、互いを思いやる意識を高める。

ウ 道路交通法(努力義務を含む)の順守について、定期的な安全指導を行い、自分の身を守るとともに、他の道路利用者を思いやる意識を高める。

エ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※ 遅刻者数 R8年度には 1,000 人をめざす (R3 1,648 人 R4 1,362 人 R5 1,582 人)

※ 美化に関する教員および生徒意識の向上(学校教育自己診断美化に関する項目の肯定率 80%以上) (教員 R5 22%)

(3) 総合的に人権教育を推進することにより、個性を理解し、互いを尊重し、差別やいじめを許さない人間性を育む。

ア すべての教育活動(授業、特別活動等)において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心を育成する。

イ 3年間を見通した人権教育計画を策定し、すべての人が等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。

(4) 生徒支援体制の充実し、誰ひとり取りこぼさない教育環境を維持する。

ア 担任、学年担当による生徒とのコミュニケーションや行動観察から支援の必要な生徒には、担任(部顧問)・学年主任、養護教諭等を中心として教職員が連携し、速やかに対応する。

イ 生徒相談委員会にて情報を共有し、生徒個々に対する適切な支援策は、支援委員会を中心に検討し、学校全体で組織的に進める。

ウ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上に努める。

3 活力ある学校づくり

(1) 教育内容を一層充実させる。

ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。

イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。

理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。

※ 学校説明会理解度 R8年度には 90%以上を維持 (R3 99.4% R4 99.6% R5 99.8%)

イ Web ページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。

(3) 働き方改革

ア 業務の統合や会議の効率化などを図り、生徒と向き合う時間や教材研究の時間の確保に努める。

イ 分掌、各種委員会、PT の組織及び個々の業務内容の見直しを図り、組織改変を含め、職員の働き方改革(45 時間／月を意識する)を進める。

ウ ストレスチェック職場評価改善 総合リスクに関する指標 全国平均(100)を下回る。(R4 94 R5 94)

エ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等の設定と部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。

(4) 危機管理体制を充実させる。

ア 運営委員の連絡網(SNS)を活用し、事案が発生した場合の報告・連絡・相談を早期に実施する危機管理体制を運用する。

- イ 学校保健・安全指導・衛生管理に関する指導を徹底し、事故防止に努める。
- ウ いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組むなど教育相談体制の充実を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 ・教員における「学習指導方法の工夫・改善」に関する肯定回答が 86% (100%) および「講習・補習の実施」に関する肯定回答が 79%(91%)と、昨年度を大幅に下回った。教員一人ひとりのスキルアップに繋がる授業見学を含めた校内研修の開催及び各教科の研究会への参加を促し、より効果的・主体的な学びが可能な授業になるようにさまざまな工夫や取組みを考える。 ・「必要な場面で ICT を活用した」は 86%(87%)とこの3年間 85%を維持しており、クラウド掲示板に資料・課題を掲載する等の学習支援も根付いてきた、また、Web 掲示板では、授業準備や課題連絡等を配信するとともに、連絡時にも活用するなどフレキシブルに活かされている。 ・生徒「授業以外の勉強時間1時間以上」35%(33%)と微増となり、保護者の「家庭でよく学習している」47%(48%)と昨年度同様の結果となった。ここ3年間 30%前後と停滞しており、引き続き定期的な課題配信・回収により、学習習慣を定着させられるよう指導を行う。 【進路指導】 ・進路指導への肯定的回答は、生徒 93%(91%)、保護者 76%(80%)、教員 90%(83%)となった。生徒の肯定的回答が高く、今後も生徒の多様な進路実現にむけ、親身な指導に努めたい。 【学校生活】 ・体育祭・文化祭は例年実施していた時期に開催。昨年度より従来の形態にて実施し経験したことで「学校行事の工夫」89%(86%)と微増であるが向上し、「自治会活動への参加」80%(80%)と昨年度同様に高い水準となった。3学年とも同様な数値を表しており、今後も生徒の自主性を育む取組に努めたい。 【保護者対応】 ・保護者「相談への適切な対応」は 85%(88%)と前年度より減少したものの、85%以上は維持。また、「本校の教育は全般的に満足」80%(79%)については前年度より微増であるが上回った。次年度以降も最低限 80%以上は維持できるよう引続き、家庭との連携を密に、丁寧な対応に努める。 ※ 〈 〉 カッコ内数値は昨年度	第1回学校運営協議会 令和6年7月8日（月）15:00～16:00 ○教員育成研修 ・「経験年数が少ない教員や初任者に対する研修は、オンデマンドも含めて実施しているのか。」 ・「学校の状況に応じた研修を継続し教員の育成に繋げてほしい。」 ○国際交流 ・「国際交流協会等の団体と学校が連携し、本校独自の仕組みを作って国際交流の機会を増やしてほしい。」 ・「探究活動を国際交流という形の中で、他の教科とどう関係しているのかをふまえて展開するなど工夫し、特徴あるものを作ってほしい。」 ○進学状況 ・「高校の方から大学に対して、遠慮なく大学説明会の企画立案や出張講義などの相談をしてほしい。」 ○働き方改革 ・「ICT をどう使うかが大切であり、意識統一がないままです仕事をしたいけない。共通認識で阜ワープロソフトというものを作るとより時間削減に拍車がかかる。」 ○地域連携 ・「中学校との関わる機会を多く作ってほしい。」 第2回学校運営協議会 令和6年12月11日（月）15:00～16:00 ○ICT の活用 ・「ICT の活用がどのような効果があるかを検証していく必要がある。どのような能力の向上につながっているのか考察が必要である。」 ○地域連携 ・「登下校の自転車マナーは良くなっている。」 ・「地域内における中学生との関係も特に問題なく、良好な関係性を築いている。」 ・「地域とのかかわりの深いことをアピールすべきである。」 ・「地域の方も参加できるように、文化祭の開催日程を調整したり、合唱コンクール本選にも参加できるような工夫をしてほしい。」 ○授業アンケート ・「回答値が低い生徒へのアプローチを考えないといけない。」 ・「評価と成績には相関があるのか。高い評価を回答している生徒の成績があまり振るわない場合などの支援を考えるべきである。」 ○高大連携 ・「大学側としても個別の説明会や学校案内を行うなど、働きかけを増やすなどの機会を設けたいと考えている。」 ・「合格者数や入学者数がここ数年多くなっている大学に関しては、高校側からの働きかけが必要となる。」 第3回学校運営協議会 令和7年2月10日（月）15:00～16:00 ○確かな学力の定着と学びの進化 ・「授業以外の学習時間が非常に短い。大学進学率が高くなっているので矛盾しているように思う。」 ・「各検定の受験者数が少ない。検定料が高いことも要因ではあるが、何か目標を立て努力することを経験させてほしい。」 ・「自習室の利用率が上がったことを今後も続けてほしい。学習時間の確保に繋がる。」 ○豊かな人間性の涵養 ・「部活動の加入率が年々下がっているのは、非常に残念である。」 ・「遅刻者数が今年度は非常に増加している。何が原因なのか分析して対応が必要。」 ・「体育祭、文化祭の生徒の満足度が高いので、日程調整、観戦の内容の調整を考えてほしい。地域の方が参加できるように工夫も必要である。」 ○活力ある学校づくり ・「在学生の満足度を高める食堂の企画は、今後も継続してほしい。HP に掲載するなど中学生へのアピールに繋がる。」 ・「中学生が参加できる企画を立ててほしい。」 ・「中学生へのアピールポイントを増やすためには、部活動を推し進めるべきである。」 ○学校説明会用 ・「ちらしが新しくなり見やすくなった。QR コードで申し込みが出来るように工夫したことは、今時の中学生に対応できている。」 ・「説明会で使用する備品を揃えた（色や文字など）ことで、スタイリッシュになり大いに学校の宣伝に繋がっている。」

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの進化	(1) 教科指導を充実 ア ICT を活用し継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア 授業理解度の把握、毎時の振返、個別の課題設定等に定期考査ごとに1回以上の課題を設定する。 日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ 取組の校内での共有を進めるために、初任者研修に併せて研究授業を開催し、研究協議を行う。また、パフォーマンス課題の設定、評価の基準・方法等の実践事例をクラウドストレージで共有する。	ア 授業満足度 85%以上維持 [87.57%] ・授業見学 2.5 回以上/人 [2.57/人] イ 実践事例の報告を[1 回以上/学期] ・学校教育自己診断(教員)における「学習形態等の工夫を行った」自己評価 85%以上 [100%]	ア：授業満足度 (○) (生徒による授業アンケート) 87%(前期), 85%(後期)、通期 86%と、昨年と同様 85%は維持。 ・授業見学 2.4 回／人 ICT 活用 し授業内容の工夫を継続できている。 イ：86%を達成 (○) 昨年度より下回ったが、大多数が工夫・改善を継続している。初任研修と合わせて、教員一人ひとりのスキルアップに繋がる授業見学を含めた校内研修の開催及び授業研究協議会を開催(1 回)し、5 教科が研究授業併せて各研究討議を行った。
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励	ア 適切に宿題・課題を出し(特に各教科で課題のオンライン配信を2(回/学期)以上)、取り組ませることにより、家庭学習を習慣付ける。 イ 自習室等を整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ 授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ 各種検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア 授業以外の学習 1 時間以上の生徒 40%以上 [33%] イ 自習室活用のべ人数 200 人以上 [566 人] ウ 図書館利用率 30%以上 [42%] エ 英語検定・漢字検定(準2 級)以上の合格者 各検定 15 人以上 [-]	ア：35% (△) 課題配信等も含めて習慣づける取組みを継続して行っていく。 イ：[441 人] (◎) 進学補習等を増やし自主的に学習する生徒が増えた。 ウ：[60.4%] (◎) 授業での活用推奨、放課後の自習室としての活用が増えた。 エ：各検定 15 名以上 (△) 英語検定 [7 人] 第2 回現在 漢字検定 [13 人] 第2 回現在 受験料の問題がある。対策必要。
	(3) 進路指導の充実 ア 3 年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア LP(総合的な探究の時間)の充実 1 年次「職業理解」2 年次「上級学校理解」3 年次「進路実現」の目標に沿い、高校3 年次に成人を迎える生徒に、責任のある選択ができるよう、3 年間を見通した計画・プログラム(LP 計画)の検討を行う。また、課題探究・発表を通じて社会貢献意識を醸成する。 イ 進路実現に向け、段階的な目標を明示することで、学習意欲を向上させ、具体的に組みませる。実力テストの前後にガイダンス・結果の振り返り(分析会)を設定し、自らの学習計画を策定させる。また、外部模擬試験においても同様に実施前後にガイダンス・分析会を開催する。	ア 進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 [90%] イ 学力診断テストにおける学力評価(2 年次のC ゾーン以上の割合) 70% 以上 [77.4%] ・難関・中堅私立大学への進学者数(関関同立・産近甲龍・関外・佛教) 20 名以上 [19 名]	ア：93% (○) 3 年間を見通した LP 計画の内容の工夫を行った。 課題研究・発表についても充実した内容となった。 イ：1 年 [76%] (◎) 2 年 [63%] (△) 難関・中堅私立大学への進学数 [21 人] (○) 外部模擬試験・実力テスト前後のガイダンス・結果の振り返り(分析)を行った。分析結果と対策についての情報共有が円滑に行え、学習計画に反映し結果に繋がった。

府立北かわち阜が丘高等学校

2 豊かな人間性の涵養	（１）協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭・文化祭等の学校行事の充実 イ 地域貢献	ア 体育祭や文化祭、HR 活動を通じて、リーダーを育成するとともに、リーダー中心に生徒が主体的に考え行動する力を育む。 部活動を通じて、自己肯定感を高められるよう充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 イ 地域の奉仕活動及び交流活動（地域清掃、SGS（スクール・ガード・サポーター）、中学生との部活動交流、地域活動への出場等）により、社会に貢献する力を育む。	ア 体育祭満足度 90% 以上 [94.3%] 文化祭満足度 85% 以上 [97.6%] 部活動加入率 65% 以上 [64.9%] イ SGS は、各学期 1 回以上、6 回参加 [6 回]	ア：体育祭 [95%]（○） 文化祭 [97%]（○） 部加入率 [61.7%]（△） 主体的・積極的に取組めるように学校行事（体育祭・文化祭）の工夫（昨年度より+3%の 89%）したことが満足感に反映した。 部活動参加が年々下がっている ので、顧問配置も含めて検討必要 イ：10 回（◎） 部活動交流・地域連携については、自治会の生徒を中心に生徒自ら積極的に参加するように内容等を工夫した。
	（２）生活規律の確立 ア 時間・規則を守る意識の醸成 イ 挨拶運動、他者を思いやる意識の高揚 ウ 交通マナーの啓発と安全指導(定期)を行い、身を守るための行動意識、とりわけ、他の道路利用者を思いやる意識の高揚を図る。 エ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。	ア 生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・毎朝の校門指導や事後指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 イ 朝の挨拶運動(校内)を定期的を開催し挨拶の輪を広げる取組を行う。 ウ 定期的な校外巡回や保護者、地元警察等、地域と連携した登下校時指導を行い、自転車通学における安全確保と大人が見守ることでマナー向上に繋げる。 エ 毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。学校全体の美化意識を高めるために、落ち葉の清掃や花壇の整備などに取り組む。	ア 生徒指導週間（1 回/月）時に身だしなみ等の重点指導を行う。 ・遅刻者数 前年度 10%減少 [1582 人] イ 挨拶運動の実施と日常から挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。 [一] ウ 交通安全指導・意見交換会を年 3 回以上実施する。 [3 回] 地元警察、ドライビングクールとの共同活動 [1 回以上/年] エ 学校教育自己診断(教員)における「清掃が行き届いている」の肯定的評価 50% 以上 [22 %] 学校教育自己診断(生徒)(校内美化に関する項目)における肯定的評価 50% 以上 [一]	ア:遅刻者数[2300 人]+30%（△） 登校時間を 10 分前登校としており、家庭等の事情により 10 回以上の遅刻生徒が複数名在籍していることが増えた要因である。 イ：（◎）毎月 3 回実施（変更） 生徒指導部を中心に毎日校門指導等を行い、各行事の呼びかけ・朝の挨拶運動は年 3 回自治会の生徒役員、年 2 回 PTA それぞれ行うことができた。 ウ：（○） 交通安全指導・意見交換 3 回 地元警察・Ｄスクール 1 回 エ：（◎） 清掃が行き届いてる 33%（△） 校内美化に関する 73%（◎） 廊下・教室内のワックス掛け、職員室や予備室の清掃、各 HR 等についても例年以上にポスター掲示も含めて、継続して美化運動の啓発を行った。
	（３）総合的に人権教育の推進	ア 個性を理解し、互いを尊重し、差別やいじめを許さない人間性を育む。 イ 3 年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。 また、すべての教育活動(授業、特別活動等)において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心を育成する。	ア 学校教育自己診断(生徒)における以下の項目の肯定的回答 『命の大切さを学ぶ機会』 80%以上 [89%] イ『人権について学ぶ機会』 80%以上 [91%]	ア：91%（◎） イ：93%（◎） 生徒の人権意識を深めるために、人権研修や使用する教材や内容等の工夫を行った。またニーズに合った教員研修を 2 回（Ｇワーク含む）実施し、教員一人ひとりの人権意識の向上に繋がり（アンケート実施）生徒に対する人権教育に大きく反映できた。
	（４）生徒支援体制の充実し、誰ひとり取りこぼさない教育環境を維持する。 ア 生徒相談委員会での情報共有 イ 生徒個別の支援計画 ウ SC や SSW を活用した教育相談力の向上に努める。	ア 担任、学年担当による生徒とのコミュニケーションや行動観察から、支援の必要な生徒には、担任(部顧問)・学年主任、支援委員長、SC 担当、養護教諭、保健主事、スクールカウンセラーを中心として教職員が連携し、速やかに対応する。（生徒相談委員会を週 1 回開催） イ 適宜、支援委員会・ケース会議を開催し、生徒個々に対する適切な支援策を検討、学校全体で状況を共有する。 ウ SC や SSW を活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上に努める。	ア 生徒相談委員会を毎週 1 回開催。 イ 学校教育自己診断(生徒)における『担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる』の肯定的回答 70% 以上 [73%] ウ SC・SSW による面談をそれぞれ月に 1 回以上実施。また、教員向け事例研修も開催。 ・高校生活アンケートを実施し、生徒状況の把握をするとともに SSW と連携し、家庭と行政との橋渡しを円滑に行う。 [SC 面談 11 回、SSW 面談 13 回、教員研修 1 回]	ア：週 1 回開催（◎） 各担当者・委員会の役割等を再確認し、情報共有がより円滑かつ速やかに対応できるように、教員の意識向上に努めた。 イ：76%（○） 各担当者・委員会の役割等を再確認し、情報共有がより円滑かつ速やかに対応できるように、教員の意識向上に努めた ウ：各面談・研修（○） SC 面談 14 回(追加配当) SSW 面談 12 回 教員研修 1 回 生徒の相談しやすさ（昨年度+3% 76%）と増えたので、関係性を継続し、教員への専門的な知識を深められるような研修への参加や校内研修の充実を図る必要がある。

府立北かわち阜が丘高等学校

3 活 力 あ る 学 校 づ く り	（１）教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ アドバンスコースの充実	ア 海外の高校と Web 会議(交流)を実施する。 イ 高大連携事業(関西外国語大学)のインターンシップ制度(留学生の受入)を活用し、授業への入り込み、EnglishCafe の充実により、英語に触れる機会を増やし、英語活用能力を向上させる。 ・実験を通した科学的探究能力・プレゼン力の育成	ア 海外の高校と Web 会議(交流) 3 回以上/年 [1 回] イ 複数名のインターンシップを受入れ、授業や特別活動において対話の機会を増やす。 アンケート(独自)により当該授業の肯定回答 80%以上 [89%] ・アドバンスコース生による探究発表会の実施	ア：1 回 (△) 相手校の都合で 1 回のみ実施。 イ：90% (◎) 2 名のインターンシップを受け入れ活用できた。また継続して ALT による EnglishCafe を実施継続できた。 他の大学との連携も含めて、より興味関心を深め、英語活用能力を向上できるような取組みが必要。
	（２）教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信	ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の更なる充実を図る。学校紹介パンフレットは最新のデータに時点修正し、在校生の声を入れる等の更新をする。また、随時見学も受け入れ、本校に興味を抱く中学生を支援する。 イ Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。	ア 阜メール配信 2 回/月以上 [25 回/年] ・学校説明会参加者に対する理解度アンケート肯定回答 90%以上 [99. 1%] イ Web ページ更新 200 回以上 [236 回]	ア：(◎) アンケート 99. 7% 学校紹介パンフレットの適時修正、学校説明会(生徒参加型への移行)の工夫を行った。 説明会の備品(ポスターなど)充実を図った。 イ：(◎) 毎日更新 [227 回]
	（３）働き方改革 ア 業務統合及び会議の効率化等、生徒と向き合う時間や教材研究の時間の確保 イ 分掌、各種 PT の組織・構成の改変による業務の効率化 ウ エ	ア クラウドストレージへの資料掲載、職員会議のペーパーレス化、施設利用簿(電子)共有、会議時間のさらなる短縮を図る。 イ 分掌、各種 PT の組織・構成の見直しにより校務分担を再編し、業務の効率化を検討する。(情報部の設置) ウ ストレスチェックの結果に基づき、面談等を行い、職場の健康リスクの把握と改善を図る。 エ 部活動方針を遵守し、部活動指導時間等の見直しと全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。	ア セキュアな情報以外はクラウドストレージ共有 100% 施設利用簿のオンライン運用 100% イ 学校教育自己診断(教員)における『教育活動に関する教員の話し合う機会』の肯定的回答 70%以上 [70%] ウ ストレスチェック評価 ストレス度合いの判定にもとづく職場の健康リスク指標 全国平均(100)以下 [94] エ 全校一斉退庁日の実施割合 90%以上をめぐす。 [-]	ア：100% (○) 運営・職員会議のペーパーレス会議の実施により、会議の効率化と時短に繋がった。 イ：[50%] (△) 昨年度は不安定な職場環境が続いている中での教員間や生徒指導で情報共有する場面が異常に多かったことが考えられるが、他学年との繋がりという面では問題があるので改善が必要。 ウ：[90] (○) ここ 2 年間 94%, 94%と全国平均値より低い数値ではあったが、職員全体の勤務時間削減や職場環境の改善等を行ったことが、- 4 %に繋がった。 エ：100% (◎) 年間計画・各月活動報告書の提出の徹底、外部指導員・大阪モデルの活用推進、一斉定時退庁日の徹底を行った。
	（４）危機管理体制の充実 ア 教員間の緊急時連絡網の構築・運用 イ 学校保健・安全指導・衛生管理に関する指導を徹底し、事故防止に努める。 ウ いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組むなど体制の充実を図る。	ア 運営委員のメーリングリスト(SNS)を活用し、事案が発生した場合、対処策を他の教職員・生徒・保護者への伝達を速やかに実施できる仕組みを構築し、運用する。 イ 教職員の救急講習会全員参加。 ・防災教育の取組みとして学校支援クラウドサービスを活用する。 ウ いじめの未然防止・早期発見・早期解決のため組織的な対応を図る	ア 緊急連絡体制の整備状況 ・阜メール(保護者)の登録 100% [98. 6%] イ 教職員の救急講習会参加 100% [-] ・避難訓練に加えて、学習支援クラウドサービスを活用した防災教育の取り組みを実施する。 ウ 学校教育自己診断(教員)における『いじめ対応体制、及び迅速な対応』の肯定的回答 80%以上 [30%]	ア：98% (○) 職員の緊急連絡網の構築・運営の再確認を行った。 阜メール(保護者)の登録は例年同様数であった。 イ：100% (○) 保健部、管理職、保護者等の連携の確認と生徒情報の確認(初期対応を含む)をそれぞれ行った。 ウ：73% (◎) 目標値の 80%には達していないが、昨年から大幅に改善された。 引き続き目標値の達成に向け、初期対応を含めた教員の意識向上に努める。